

ぴちインフォ <生化学検査 Part3> 2007・5

疾患の診断や経過観察に行われる血液検査・生化学検査は、服薬治療等による副作用の有無（各種臓器機能障害）を確認する上でも重要な検査です。通常2～3ヶ月に一度行われます。

“血液検査を受けたけど、測定値の見方が分からない。”という方の為に、よく行われる検査項目について、簡単にご紹介致します。基準値は、測定方法や検査施設によっても微妙に異なります。お手元にある検査結果に記載されていますのでご確認ください。基準値内かどうかで一喜一憂するのではなく、検査データを総合的に判断する事が大切です。

検査項目	日本語名	検査概要
SAMY UAMY	血清アマラーゼ 尿中アマラーゼ	澱粉分解酵素。肝・胆道・腎疾患では血清のみ上昇する。急性慢性膵炎・膵癌・耳下腺炎等では血清と尿中のAMYが上昇する。膵リパーゼ等の検査が指標となる。
UN・BUN	尿素窒素	主として蛋白質の代謝物。肝障害で低値、腎機能障害等で高値となる。
Na	ナトリウム	水分代謝異常の指標。糖尿病・下痢等で高値、腎不全・心不全等で低値を示す。
CL	クロール	水分代謝や浸透圧調整に関与。脱水症等で高値、栄養不良・急性腎不全等で低値
K	カリウム	腎不全・糖尿病等で高値、利尿剤の大量投与・腎不全や多尿症等で低値を示す。
Ca	カルシウム	副甲状腺機能亢進症・悪性腫瘍で高値、副甲状腺機能低下症・腎不全等で低値
TSH	甲状腺刺激ホルモン	高値でバセドウ病、低値で甲状腺機能低下症。FT3・FT4の濃度が指標となる。
TGHA	抗サイログロブリン抗体	甲状腺のサイログロブリンに対する自己抗体。橋本病・バセドウ病等で高値となる。
MCHA	抗マイクロゾーム抗体	甲状腺のペルオキシダーゼに対する自己抗体。橋本病・バセドウ病等で高値となる
TRAb	TSHレセプター抗体	甲状腺のTSHレセプターに対する抗体。バセドウ病で陽性となる。
I g E	IgE抗体	免疫グロブリンE。花粉症・気管支喘息・アトピー性皮膚炎等で高値を示す。
CRP	C反応性タンパク	細菌性感染症で高値。その他感染症・自己免疫疾患・悪性腫瘍等でも上昇する。
RA R A P A	リウマチ因子 リウマチ因子(RAHA法)	リウマチ因子(RF)に対する抗体。慢性関節リウマチの80-90%が陽性。全身性エリテマトーデス・進行性全身性硬化症・肝硬変等でも30-50%が陽性となる。
ANA	抗核抗体	膠原病患者に現れる自己抗体。SLEで100%、慢性関節リウマチ等でも高陽性率
S-G S-B	HBs抗原・抗体	HBウイルスに感染すると陽性になる。HBs抗体は、感染後4ヶ月程度で陽性となる。
A F P	α-フェトプロテイン	肝細胞癌・肝芽腫・ヨークサック腫瘍等で高値。肝硬変・慢性肝炎でも上昇する。
CA 1 9 - 9	消化管癌関連抗原	膵癌の90%、胆のう・胆管癌の85%以上が高値。肝・肺癌も陽性率が高い。
P A P	前立腺性ACP	ACPは前立腺にのみ分布。ある程度進行した前立腺癌でほとんど陽性となる。
CA 1 2 5	糖鎖抗原125	卵巣癌に特異的に高い陽性率を示す腫瘍マーカー。早期でも6割以上が陽性。
C E A	癌胎児性抗原	消化器や各種癌のスクリーニング、癌治療効果や転移の確認に行われる。肝硬変や消化器潰瘍でも上昇する事がある。

— 親切・便利・安心・お役に立ちますノムラ薬局 —